

ビデオメッセージ

滋賀県知事 三日月大造氏

皆さん、こんにちは。滋賀県知事

の三日月大造です。今日は私の大好きな、また原点でもあるJR連合が結成30周年の節目を迎えられ、記念式典シンポジウムを開催されると伺い、謹んでメッセージを送らせていただきます。まずは、この30年の歩みに心から

敬意を表し、またお祝いを申し上げますと存じます。グループ労組の皆さんを含め、私たちの生活やそれぞれの地域に、なくてはならない公共交通をはじめとする幅広い生活サービス産業を担っていたいただいていることに、心強く思うと同時に感謝申し上げたいと思



います。

私自身も1999年から2001年までの2年間、JR連合の「青年・女性委員会」の議長を担わせていただき、組織の問題や政策の問題、様々な活動をしたことが原点になっております。

もう一つ申し上げたいのですが、今、人口減少やロシアによるウクライナ侵攻、コロナ禍の長期化など、様々な事柄により社会に大きな変化が生じています。言ってみれば時代の曲がり角にあるのではないかと意識しております。以前のように人口が増えず、生まれてくる子どもの数も減る。また長引くコロナ禍の中で、私も県民に対して申し上げてきたんですけれども、「行かないでください」「来ないでください」「人と人との距離をとってください」「会議はやらないでください」「出社はできればテレワークにしてください」と言ってきました。このことは私たちの暮らしを大きく変えると同時に、皆さん方が担われているお仕事のあり様を大きく変える事態になっているのではないのでしょうか。

そういう状況の中で、私は一筋の光を見出しつつあります。それは社会の共通資本というものに対する私たち国民・県民の物の見方の変化です。自

然環境も医療もそうです。そして、皆さん方の多くに担っていただいている公共交通が、私たちの社会にとってなくてはならない共通の大切な資本であり、資源であるということの認識が高まりつつあるのではないのでしょうか。

厳しい状況にある会社や路線が自治体に対して提起されたり、どうすれば持続可能なかということと一緒に考えられるようになってきました。安全というものを第一に据えながら、公共交通の持続可能性と一緒に考えていくステージやプラットフォームをこれからどんどん立ち上げていきたいと思

みます。みんなで描いた夢、ビジョンを実現するための方策として、今滋賀県では、地域公共交通をこれから維持活性化するための財源を私たち県民が等しく少しずつ負担する仕組みについて、いわゆる交通税という形でつくれるのかという投げかけを始めました。

新たな税をつくることや追加で負担することについては慎重であるべきだと思えますが、国の補助金だけに頼らず、利用者の負担、事業者の経営努力だけに頼らない新しい選択肢を地方自治の中で持つことができれば、公共交通の新しい未来を開くこともできるのではないのでしょうか。

交通は私たちの血液であり、血管で

もあると思っています。文化の源でもあります。福祉や社会の背骨にもなるでしょう。ぜひ滋賀県で皆さんと一緒に培ってきたことを実践・実現できるように頑張っていきたいと思

います。最後にありますが、労働組合の元気がなくして会社や社会の元気はないと思

います。JR連合が、「人と人が出会い、ふれ合って語り合って、職場の問題を克服していくんだ」「社会をより良くしていくんだ」ということを念

じながら活動されていることは、JRという産業にとっても社会にとってもとても意味のあることだと思